せんごくの里ニュース ふなで

2017年1月　第17号
社会福祉法人大阪福祉事業財団
せんごくの里
発行責任者：所長　永田美子
〒597-0051　貝塚市王子1183-3
TEL(072)437-1075
FAX(072)437-1076

あけましておめでとうございます

頌春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

今年のお正月三ヶ日は、穏やかな日和に恵まれました。

年頭に於いて思う事は、利用者・家族・職員が健康で笑顔に溢れる日々を共に積み重ねていける事。

そんなせんごくの里の一年になるよう、運営努力をしてまいりたいと思います。本年もよろしくお願い申し上げます。

二〇一七年一月一日
せんごくの里
所長　永田美子

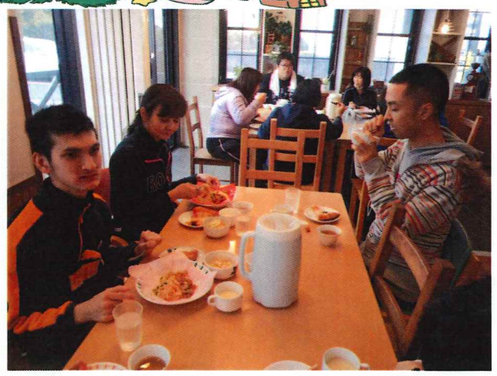
盛り上がった！第5回ひびきあいまつり

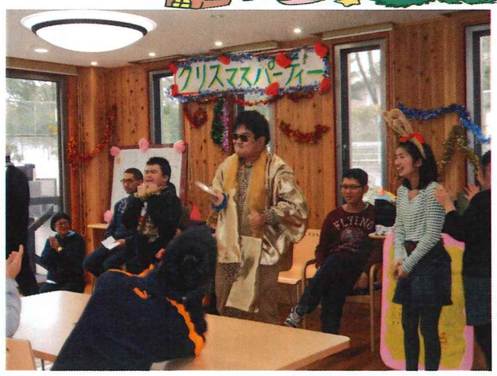
第５回ひびきあいまつりは「平和と福祉・ゆたかなまちづくり」をテーマに開催されました。当日は、開始の時間を大勢の方々が並んで待っていて下さる程盛況でした。白いくものパンは、毎年の事ながらアッと言う間に完売！自主製品も、ボランティアの方々の協力を頂き販売することができました。

舞台では、よさこいサークル「和」・うたごえサークルのメンバーが元気いっぱい発表しました。毎週一回の練習を欠かさずしてきた成果です。

今年の平和コーナーは、舞台で絵本の朗読と唄で平和の意義を皆さんにお伝えしました。これからも、大勢の方々の応援に感謝し、地域になくてはならないまつりになる事をめざして、今後も継続できたらと思います。

Merry X'mas
～楽しかった、クリスマス会～





いきいき班

昨年秋、福祉大会や社協からたくさんの商品の注文がありました。これまでにない注文数に喜びと「無事に仕上げられるだろうか？」と不安な気持ちも。来る日も来る日も商品作り、疲れも出てきます。みんなで声を掛け合い、頑張りました。注文商品は無事に納品できました。過去最高の売り上げにみんな拍手で喜びました。

12月には慰労会を行い、「本当にがんばったね」「よかった、うれしかった」とみんなで喜びを分かち合いました。みんなで力を合わせればやりとげることができる、そのことがみんなの自信につながったと思います。

わくわく班

わくわく班は9月から10月にかけて沢山の仕事が入り、忙しい時期が続いていました。仕事に追われていたため、散歩などの取り組みを行うことが難しい期間が続いていましたが、せんごくと麻生中のわくわく班メンバーで力を合わせてその期間を乗り越えました。11月になると仕事も落ち着き、散歩や給料後の喫茶の取り組み等の余暇活動も再開しています。12月のクリスマス会では、普段はせんごくと麻生中で分かれているわくわく班のメンバーが集まり、一緒の出し物に取り組む事が出来ました。

白いくも

寒ーい冬がやってきましたね!!

白いくもでは、毎年あたたかメニューを用意しております。

新メニューは、「甘酒」です。冷えきった体を芯からあったためてくれる甘〜い味に、きっと、やみつきになる事間違い無しです。他にも「ぜんざい」・「ココア」「ウインナーコーヒー」と冬限定メニューを用意して、スタッフ一同お待ちしております。

林　玲央人さん

浅野　絢子さん

奥垣　麻紀さん

音楽療法 vol.12

あけましておめでとうございます。本年もミュージック・ケア（以下M・C）でご一緒させて頂ける喜びを感じています。どうぞ宜しくお願いいたします。

今回は最近変化が感じられた男性メンバーさんのお話しです。4年半前にM・Cがスタートした当初から、参加しないという選択をされてきたAさんですが、私は到着すると玄関で毎回次の様な会話をしていました。浦川「Aさん、おはようございます。今日はM・Cに参加しますか？」Aさん「しません。」浦川「分かりましたよ。じゃあ、来たくなったら来てくださいね。」Aさん「来ません。」私はこのやりとりを楽しんでいました。セッション終了後は玄関で、Aさんの方から「来月はいつ来ますか？」浦川「〇月〇日に来ますよ。」Aさん「〇曜日です。」浦川「〇曜日なんですね。」Aさん「午前中ですか？」浦川「はい、午前中ですよ。来月は参加しますか？」Aさん「しません。」浦川「分かりましたよ。さようなら。」このやりとりも楽しい時間でした。

昨年11月のセッションの前に私が「Aさん、おはようございます。今日は参加しますか？」Aさん「します。」と返事があり、私は自分の耳を疑うほど驚きました。と同時に心の中で「やった！」と万歳しました。Aさんはその日のセッションに最後まで参加することができました。帰り際、浦川「今日はありがとうございました。次も参加しますか？」Aさん「します。」私はまたまた「やった！」と心の中で万歳しました。

M・Cでは参加したくない気持ちを大切にします。決して強要はしませんが、大切なのはお誘いを続けるということです。諦めてはダメ。いつか変化が現れるだろうと期待して慎重に心の扉をノックし続けるのです。音楽が鳴っている時間だけがM・Cではなく、セッションの前後もM・Cだと捉えています。また、音楽が聴こえている空間は雰囲気を感じることができるので、全てセッションであると考えます。参加しない選択をされたAさんでしたが、セッションの雰囲気は感じていたのかもしれません。Aさんが「（M・Cに参加）します。」と言って下さる日が増えるよう、Aさんのパーソナルスペースを大切に思いながら、少しユーモラスなやりとりを続けていきたいと思います。

日本ミュージック・ケア協会認定指導者　浦川暁美

大田　直司さん

阪本　数雄さん

三浦　滉也さん

基山英莉加さん

稲留　武史さん